

一般質問

・地域の活性化及び
経済の活性化について



松下久己

問

御前崎港の地域活性化及び、経済活性化は、客船誘致、貿易に限らず、漁業や観光振興を含めたあらゆる分野に開拓を進める必要がある。御前崎港は、県管理の港湾であり、国で指定する重要港湾でもありません。成長戦略として、御前崎港の経済政策に取り組んできたことは認識しています。将来を見据えた整備促進など、施策を進める上で国や県の制限もあると思います。様々な制限を緩和でき、国や地方公共団体、民間企業と一緒に施策を進める上で相応なメリットがあると思慮される「国家戦略特別区域」を申請し、成長戦略の地域振興に向ける考えは

答

防波堤の整備は、国の直轄港湾整備事業において、順調に整備が進んでいます。地域の活性化の面では、帆船「海王丸」や浚渫兼油回収船「清龍丸」にも寄港していただき、港という財産を活用することで、賑わいの創出と、地域経済の活性化に繋げ

たいと思っています。新たなコンテナ航路も開設され、御前崎港の利用拡大に繋がるものと期待されています。整備促進などの施策は、主に港湾管理者である静岡県や国土交通省が実施し、直接、市としては実施していない状況です。現時点では、国家戦略特区の申請をする案件は見当たりませんが、今後、取り組む必要性が生じた際には、港湾管理者である静岡県などの関係者と調整しながら検討していきたいと考えています。



御前崎港

一般質問

・財政の展望について



杉浦謙二

問

30年度予算編成に忙しい時期と思います。いずれも当初予算ベースですが、27年度は7億4,900万円、28年度は15億1,800万円、29年度は22億5,100万円、3年間で45億1,800万円を歳入不足を補うために財政調整基金を繰り入れております。

答

30年度予算は、歳入に見合った予算なのか、従来のように多額の繰り入れをして予算編成するのか、大変厳しい財政状況の中、第2次御前崎市総合計画の目標達成のため、実施計画を着実に推進するため30年度においても相当額の財政調整基金の繰り入れはやむを得ないと考えています。

問

30年度予算の実質歳入はどのぐらいか
180億円程度になると考えています。

答

財政調整基金の推移は

答

25年度末の一般会計基金残高は、財政調整基金が約86億7千万円、その他特定目的基金が66億3千万円、合計で約153億円です。28年度は、財政調整基金が約83億7千万円、その他特定目的基金が約45億1千万円で21億2千万円の減です。3年間で約24億2千万円の減となります。

問

今後の公共施設の維持費、インフラの老朽化による維持費は

答

今後40年間の更新費用は、公共施設では年平均で約18億4千万円、道路などのインフラ資産は年平均で27億6千万円となります。合計では、平均46億円となります。

問

市の財政調整基金はどのくらいが健全だと考えるか
少なくとも30億円くらいは必要だと考えます。

答